

# 令和3年度事業報告書

社会福祉法人 三峰福社会  
特別養護老人ホーム 黎明館  
短期入所生活介護事業所 黎明館

## 【基本理念】

当法人は、下記の理念に基づいて事業運営にあたった。

### 『信頼される真心のこもった介護サービスの提供』

#### 〔特別養護老人ホーム〕

本年度、特別養護老人ホーム黎明館の事業運営においては、基本理念『信頼される真心のこもった介護サービスの提供』に基づき、明るい雰囲気作りを図るとともに、入居者にとって安全で快適な生活環境とするべく支援にあたった。

また、入居者個々の意向を尊重し、日常生活上必要な諸サービスの充実を図るとともに、家族との連携を重要視したサービスの提供に努めた。

また、行政機関、各居宅介護支援事業所、介護保険施設との連携を図る事により、新規申し込み者の開拓にも努めた。

#### 〔短期入所生活介護〕

本年度、短期入所生活介護事業所黎明館事業運営においては、令和2年12月より受け入れを停止していたが令和3年12月より再開し、年度利用率が1.2%だった。

## 【年度重点目標に関する評価】

### ① 個別ケアへの取り組みについて

例年継続して排泄等個別ケア介護全般に渡って取り組んでいるが、まだ入居の方々の状況に応じた個別ケアへの支援が十分に行えている状況ではない。次年度も継続して個別の支援が実践できるよう努めていく。

### ② 各種委員会活動の活性化

各種委員会活動については、各委員会の委員長を中心に様々な活動を行った。特に感染症対策委員会は産業医、嘱託医の助言を得つつ感染予防策を講じたが、新型コロナウイルスの流行継続により、面会制限等の諸対策を継続した。幸いにも施設内でのコロナウイルス感染症の発症報告はなく、年度事業運営を行う事ができた。

### ③ 身体拘束廃止に向けた取り組み

身体拘束については、あくまで拘束ゼロの考えから、拘束をせず・させずを基本とした。

ただし、生命または身体を保護するため緊急止むを得ない場合、切迫性、非代替性、一時性を確認した上で家族へ説明し同意を得、第三者委員の意見を付した上で行動制限を行った。

令和3年度は1名身体拘束対象者あり。

④ マネジメント機能の充実

ケアプランは全てのサービス提供の根幹となる事から、本年度もプランの内容及び実践に関する充実を図ってきた。

また、入居時のカンファレンス、入院後の退院時カンファレンス、状態変化時にもカンファレンスを開催し、本人希望のみならず家族の意向も確認できるよう努めた。

⑤ 自主性の尊重

業務全般に渡って、自主性は必要不可欠なものであり、各職員が目標を持って積極的に業務に取り組むべく支援にあたった。

⑥ 職員休憩室整備工事について

職員休憩室が手狭となっていた事もあり、現場より要望のあった職員休憩室の整備工事を行った。(旧デイ浴室)

効果としては、職員が横になって休憩できるようになった、また、職員間の間隔を保つ事ができるようになる等感染症予防対策にもつなげる事ができた。

7月15日に完成する。

**【年間行事報告】**

月	行事計画
4	桜花見
5	しょうぶ湯、ふれあい会総会
6	物故者慰霊祭
7	運動会
8	そうめん流し
9	敬老祝賀会、月見団子作り
10	紅葉見物
11	ぜんざい会
12	クリスマス・忘年会
1	年賀式、鏡開き、初詣、新年法話
2	節分豆まき
3	雛祭り、彼岸団子作り、創立記念日祝賀会
月例行事	野外活動、喫茶、懇談会、誕生会

## 年間利用状況

### 1. 特別養護老人ホーム

#### ①利用状況推移調べ

月	延べ日数 (R2)	延べ日数 (R3)	利用率 (R2)	利用率 (R3)	平均利用率	平均介護度
4	1408	1414	93.9	94.3		4.02
5	1404	1488	90.6	96		4.04
6	1343	1342	86.6	89.5		4.04
7	1489	1356	96.1	87.5		4.04
8	1518	1290	97.9	83.3		4
9	1360	1352	90.6	90.1		3.98
10	1370	1332	88.4	85.9		4
11	1380	1357	92	90.5		3.92
12	1406	1453	90.7	93.7		3.96
1	1411	1370	91	88.4	R2	3.94
2	1260	1400	90	85.7	91.5	3.92
3	1404	1461	90.6	94.3	R3	3.9
合計	16753	16615	1098.4	1079.2	89.9	47.76

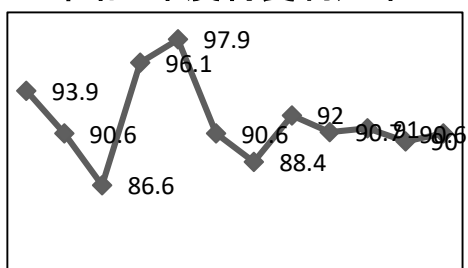
#### ②年間要介護度推移状況調べ(実人員)

月	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
4	0	1	13	20	16
5	0	1	12	20	16
6	0	1	13	19	17
7	0	1	14	19	16
8	0	1	13	18	15
9	0	1	14	21	15
10	0	1	15	21	17
11	0	1	15	21	13
12	0	1	14	22	13
1	0	1	14	22	13
2	0	1	15	21	13
3	0	1	16	21	13
合計	0	12	168	245	177

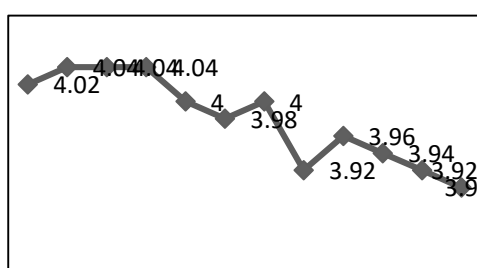
#### ③年間要介護度推移状況調べ(実日数)

月	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
4	0	30	360	566	458
5	0	31	403	589	465
6	0	30	330	541	441
7	0	31	338	550	468
8	0	31	365	496	398
9	0	30	413	560	349
10	0	31	408	530	363
11	0	30	409	557	361
12	0	31	425	621	376
1	0	18	402	574	376
2	0	8	363	477	352
3	0	31	458	617	355
合計	0	332	4674	6678	4762

令和3年度特養利用率



令和3年度要介護度



2. 利用者状況調べ(令和4年3月31日現在)

① 利用者年齢構成状況調べ

年齢	男性	女性	合計
65歳～65歳未満	0	0	0
65歳以上～75歳未満	2	1	3
75歳以上～85歳未満	2	5	7
85歳以上～90歳未満	2	14	16
90歳以上～95歳未満	3	15	18
95歳以上～100歳未満	1	3	4
100歳以上	1	1	2
合計	11	39	50
平均	86歳9ヶ月	88歳11ヶ月	88歳5ヶ月
最高齢	100歳2ヶ月	100歳8ヶ月	100歳8ヶ月

② 在所期間調べ

	男性	女性	合計
1年未満	4	12	16
1年以上～3年未満	5	11	16
3年以上～5年未満	1	5	6
5年以上～10年未満	1	10	11
10年以上	0	2	2
合計	11	40	51
平均	1年 8ヶ月	3年 5ヶ月	3年 0ヶ月

③ 職員配置状況調べ

職種	常勤	非常勤	
特養施設長(管理者)	1		短期兼務
事務職員	4		
生活相談員	1		短期兼務
介護支援専門員	1		短期兼務
看護職員	2	2	短期兼務(1)
機能訓練指導員	1		短期兼務(1)
管理栄養士	2		ユニット、短期兼務
介護職員	15	4	内介護福祉士10名

## 年間利用状況

### 1. 短期入所生活介護

#### ① 利用状況推移調べ

月	延べ日数 (R2)	延べ日数 (R3)	利用率 (R2)	利用率 (R3)	平均利用率	平均介護度
4	36		12			
5	50		16.1			
6	45		15			
7	64		20.6			
8	80		25.8			
9	85		28.3			
10	74		23.9			
11	60		20			
12		8		0.02		2.33
1		3		2	R2	2
2		6		1.5	17.94	1.5
3		10		1.3	R3	1.3
合計	494	27	161.7	1.2	1.2	7.13

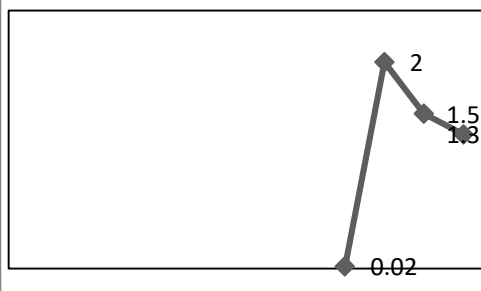
#### ② 年間要介護度推移状況調べ(実人員)

月	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
4	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	0
7	0	0	0	0	0	0
8	0	0	0	0	0	0
9	0	0	0	0	0	0
10	0	0	0	0	0	0
11	0	0	0	0	0	0
12	0	0	1	1	0	1
1	0	0	0	1	0	0
2	0	0	1	1	0	0
3	0	0	2	1	0	0
合計	0	0	4	4	0	1

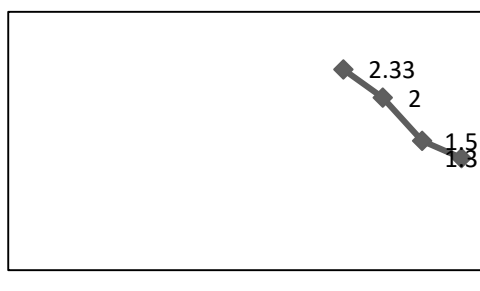
#### ③ 年間要介護度推移状況調べ(実日数)

月	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
4	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	0
7	0	0	0	0	0	0
8	0	0	0	0	0	0
9	0	0	0	0	0	0
10	0	0	0	0	0	0
11	0	0	0	0	0	0
12	0	3	2	0	3	8
1	0	0	0	3	0	3
2	0	0	3	3	0	6
3	0	7	3	0	0	10
合計	0	10	8	6	3	27

令和3年度短期利用率



令和3年度要介護度





令和3年度実習受入状況調べ

受入年月日	教育機関名	実習生	備考欄
年月日～年月日			



## 防災関係

今年度の防災に関する取り組みとしては、防火管理委員会を中心として各種訓練、教育及び講習会の充実を図る事で職員の防災意識の向上をめざした。

今年度の総合訓練実施時には震災対応の訓練はもちろんの事、各部への火点発生箇所事前通知を廃止する等、より実践的に近い訓練とする事ができた。

なお、定期的実施している防災教育についても、非常時の取り組みから消防設備の取り扱い要領等を学ぶ事ができ、より職員の防災意識の向上につなげる事ができた。

### ① 令和3年度消防総合訓練実施状況調べ

開催年月日	想定区分	主な内容	備考欄
令和3年11月22日	夜間	総合訓練(避難、消火、通報)	班員6名のみ
令和4年3月28日	昼間	総合訓練(避難、消火、通報)	班員6名及び全職員

### ② 令和3年度救急蘇生法講習会実施状況調べ

開催年月日	想定区分	主な内容	備考欄
令和3年7月15日	/	誤嚥窒息対応、AED使用方法	熊本市消防局

### ③ 令和3年度消防通報訓練実施状況調べ

開催年月日	想定区分	主な内容	備考欄
令和4年1月25日	/	非常時の通報訓練	

### ④ 令和3年度消火訓練実施状況調べ

開催年月日	想定区分	主な内容	備考欄
令和3年11月22日	昼間	総合訓練実施時の消火訓練	

### ⑤ 令和3年度防災教育実施状況調べ

防災教育(期)	開催年月日	主な内容	講師
I 期	令和3年5月20日	自家発電設備取り扱い説明	村上
II 期	令和3年11月1日	スプリンクラー設備取り扱い説明	村上
III 期	令和4年3月28日	自家発電設備取り扱い説明	シスケン、ヤマビコ
IV 期	/	中止	

### ⑥ 令和3年度消防設備点検実施状況調べ(自主点検分)

実施状況	主な内容	点検者	備考欄
毎月1回	消防設備自主点検	村上	

### ⑦ 消防設備点検実施状況調べ(業者委託分)

#### 1. 消防設備関係

点検日	点検業者	主な点検内容
令和3年11月22日	熊本環水	消防設備全般の法定点検
令和4年3月28日	熊本環水	消防設備全般の法定点検・居宅建物3/31点検

#### 2. 非常通報装置関係

点検日	点検業者	主な点検内容
令和3年9月30日	ジャパンテレコム	非常通報装置の法定点検
令和4年3月29日	ジャパンテレコム	非常通報装置の法定点検

⑧ 防火管理委員会開催状況調べ

開催日	主な内容
開催日令和3年11月2日	議題1:消防総合訓練実施について 議題2:防災教育の実施状況 議題3: →詳細は会議録に記載
開催日令和4年3月3日	議題1:消防総合訓練(昼間想定)について 議題2:防災教育について 議題3:令和4年度消防関係計画表の検討 →詳細は会議録に記載

⑨ 消防署立ち入り検査状況報告

検査日	指摘事項	改善事項
平成29年9月27日	消防設備については定期点検を行い、熊本市北消防署長へ提出する事。	定期点検後は点検業者より熊本市北消防署長へ報告する形へ変更。

## 研修関係

今年度の研修については、キャリアパスに関する要件としても研修の充実を掲げていることから、毎月定例の内研修に加えて、外部研修についても積極的な参加を促し職員のスキルアップを図った。

また、同時に学ぶ事がサービスに関する質の向上を図る事ができると考え、介護技術に関する研修についても多くの時間を費やすと同時に、基本的な研修についても力を入れた。

### 令和3年度施設内研修実施状況調べ

月	日	外部報告・内研修の別及び参加人数	主な研修内容	講師
4		内研修 名	介護保険制度について	回覧
5		内研修 名	認知症について	回覧
6		内研修 名	褥瘡について	回覧
7		内研修 20 名	救急蘇生法講習会	熊本消防
8		内研修 名	認知症について	回覧
9		内研修 名	褥瘡について	回覧
10		内研修 22 名	感染症(予防ガウンの着脱法)	医務
11		内研修 36 名	外部(福祉人材と労働環境)	上田社労士
12		内研修 24 名	感染症シュミレーション研修	医務
1		内研修 34 名	外部(セクシャルハラス)	上田社労士
2		内研修 名	介護技術(食事について)	回覧
3		内研修 名	リスク、身体拘束、虐待について	回覧

回覧人数は含めず 年間参加者 136名

### 令和3年度外部研修参加状況調べ(主要研修のみ)

月	日	主な研修内容	参加職員
7	15	救急蘇生法講習会(熊本市消防局)	20名
7	16	褥瘡に関する研修	安武、古澤
7	29	特養主任職員研修(第1回)	西本
8	24	特養主任職員研修(第2回)	西本
9	28	ADL加算算定に関する研修	寺村
	30	口腔ケアオンライン研修	中川
10	29	喀痰吸引研修	星乃
11	5	喀痰吸引研修(毎週金曜日)	星乃
	26	上田社労士事務所研修	副施設長
12	9	全老協協トップセミナー	次長
3	5	認知症研修フォローアップ研修	富田
	6	コロナシュミレーション研修	安武、古澤、上田

## 感染症対策関係

今年度の感染症対策としては、施設内に設置している感染症対策委員会を中心として、感染症に関する指針、マニュアルの定期的な見直し、地域での感染症の発症状況の把握等を業務として取り組んだ。

また、新型コロナウイルス感染症については、感染の拡大状況等をその都度確認し、委員会としての対策立案に努めた。

また、職員への感染注意喚起、家族に対しても必要な情報の提供を図り、感染対策への理解を求めた。

### 令和3年度感染症対策委員会開催状況調べ

月	日	主な議題	出席者
4	28	施設周辺での感染症流行状況、コロナワクチン接種計画等	7
9	10	コロナウイルス感染症流行状況について(面会対応について)	8
12	10	県内での発症状況、ワクチン接種の準備状況	9
3	4	入居者家族の面会対応等	8

### 令和3年度感染症対策研修開催状況調べ

月	主な研修内容	出席職員
5月	食中毒について	回覧
6月	肝炎について	回覧
8月	尿路感染症について	回覧
9月	インフルエンザについて	回覧
10月	インフルエンザについて	回覧
11月	ノロウイルス感染症について	回覧
12月	感染症対策(手洗い実践研修)	25名
3月	ロタ、ノロウイルス感染症について	24名

## 生活相談部門

今年度、生活相談部門では、入居者が日々快適に過ごせるよう、必要な生活援助及び相談業務にあたった。

また、利用の方々に悩みや相談等がある場合には、随時対応するとともに、安心感を持っていただけるような援助に努めた。

なお、各種委員会活動については、利用者にとってより良い生活環境となるよう、施設全体が活性化できるよう必要に応じて助言等に努めた。

介護サービスに関する苦情受け付け状況については、小さな要望等はあったが、苦情として検討、対策を講じるような事案はなかった。

入所判定委員会の運用については、公正中立を第一に運用を図るとともに、外部委員の助言等も得つつ適切な運用に努めた。

最後に地域に根差した施設作りのため、地域住民、実習、ボランティア団体の受け入れについても各部と協力しながら積極的に行った。

### ① 入退所状況調べ

月	入居	退居	在復	合計
4	2	2	0	4
5	0	0	0	0
6	0	1	0	1
7	2	1	0	3
8	2	3	0	5
9	2	1	0	3
10	1	3	0	4
11	3	3	0	6
12	2	3	0	5
1	3	2	0	5
2	0	1	0	1
3	2	1	0	3
合計	19	21	0	40

前年度3月末退居あり

### ② 入居前居住状況調べ

	合計
在宅	0
施設	10
医療機関	9
その他	0
合計	19

### ③ 身体拘束状況調べ

利用者	性別	要介護	拘束の内容
S・T	女	3	就眠時のミトン型手袋使用(留置パルーン自己抜去)
同意日	令和4年2月		
期間	6ヶ月		
中止			

## ケアマネジメント部門

今年度ケアマネジメント部門では、利用者の身体的、精神的な状況を把握するとともに、家族のケアに対する意向を十分に把握する事でより利用者主体のケア提供とすべくケアプランの作成にあたった。

また、入居時、入院後の退院カンファレンスを開催する事で家族と職員が連携する事ができた。なお、状態が変化した場合にも随時会議を開催し、統一したケアができるよう支援にあたった。

最後に、プラン作成後は必ず家族の同意を得た上でプランを発行する事とし、家族に対してもプランを発行した。

## 介護部門

今年度介護部は、パーソンセンタードケア(その人らしい生活)を念頭に置き、『いつまでも自分らしく暮らしたい』という利用者の思いを重視し、『その人らしさ』を支えるために、個別ケアへの取り組みを勧めた。

一つの取り組みとして、女性の排泄ケア時には可能な限り女性職員が付き添う、一定時間での排泄ケアではなく、個々に違いがある排泄感覚に沿って誘導する等の取り組みを行った。(羞恥心への対応)

また、ケアにあたっては利用者本人のみでなく家族との連携を十分に図り、カンファレンス時や面会時に意向等を確認した上で、ケアそのものに反映させた。

### ① 食 事

利用者個々の嚥下能力や摂取能力に応じた食事の提供を進めた。また、状態変化時の迅速な食形態の変更等職種間で連携を保つ事で随時対応する事ができた。また、嗜好調査の結果を踏まえた上で食事内容、形態に工夫を加える事ができた。更に正しい姿勢での食事摂取は誤嚥を予防する効果があるとされている事から、椅子等を活用し、美味しく楽しく食事を食していただけるよう支援にあたった。

### ② 排 泄

利用者一人一人の排泄形態に応じた排泄ケアが提供できるよう、常に自立支援を第一に考えつつ既存トイレ、PTイレ等を最大限に活用しサービスの提供にあたった。また、排泄への支援は人としての尊厳を守る原点であるとの考えから、プライバシーの保護に留意しながら支援にあたった。

### ③ 入 浴

入浴サービスについては、一般浴、中間浴、特別浴等の入浴設備を最大限活用し、入浴サービスの提供にあたった。

また、サービス提供にあたっては、利用者個々の身体状況等に応じた入浴サービス提供を支援するため、ADL調査での状態確認及び入浴形態確認表での入浴形態を確認をした上で、自立支援につなげる事ができた。

### ④ レク活動

今年度レク活動については、午後の時間を中心に『楽しく元気』を基本に諸活動を行った。また、野外活動や地域の学校等の発表会、運動会等へも利用者の希望を確認しつつ参加支援を行い、社会参加の機会作りに努めた。

### ⑤ 口腔ケアについて

口腔ケアについては、毎食後3回のケアを継続的に行う事で、口腔内の清潔を保つ事ができ、肺炎の発症予防につなげる事ができた。

### ⑥ 諸委員会活動

#### 1. 活性、接遇委員会

活性委員会では、レク活動等の活性化により施設生活がより活動的となるよう、担当職員を中心に一体となって取り組んだ。

また、接遇委員会ではあいさつ、身だしなみ、態度、言葉遣い並びに整理整頓等を

重点目標として活動を行った。

## 2. 排泄委員会

排泄委員会では、利用者個々の排泄感覚、状態の把握により、より個別に対応できるようなケアの見直し等を随時行うとともに、プライバシーの保護に十分留意した支援に努めた。

また、入居される方々の高齢化も進んできており、重度化によるオムツ対応者の増加が見られるので、トイレでの排泄が可能でないと判断できる方については、随時トイレ誘導等個々の状況に合わせた支援に努めた。

## 3. 安全対策委員会

安全対策委員会では大きく委員会を大、小委員会に区分し委員会活動を行った。小委員会では各事故、ヒヤリハット事例の報告検討会を実施し、原因の再分析と対策について討議した。

なお大委員会では小委員会での討議事項、事故に対する原因分析、対策評価を行い、必要に応じて対策の変更及び追加の決定を行った。

前年度の介護事故の発生件数は31件であったが、今年度は33件の発生となった。

## 4. 褥瘡委員会

今年度、褥瘡委員会では褥瘡予防を第一に嘱託医、協力医と連携しつつ予防に努めた。褥瘡を予防するために、体位交換やエアーマットの使用、並びに体位交換用マットを利用者の身体的状況等総合的に判断して利活用を勧めた。

なお、個々の状況把握として、OHスケールを医務を中心として定期的に作成し、スケールの結果も褥瘡予防のために最大限活用した。

最後に、予防器具等のみに頼るのではなく、定期的な体位交換や栄養管理等多職種で連携し、支援に努めた。

## 5. ふるさと巡りについて

入居以前に過ごされていた入居者ごとの地域を巡る等の活動を実施していたが、新型コロナウイルス流行により開催を見合わせた。

令和3年度介護事故状況調べ

内容 月	転倒・転落	表皮剥離・外傷	骨折	誤薬	誤配膳・誤嚥	その他	備考
4月		1	1		1		
5月		1					
6月		3			1	2	
7月		1			2		
8月	1	4	1			1	
9月		1			1		
10月		3					
11月					1	1	
12月		2					
1月	1				1		
2月							
3月		2					
合計	2	18	2	0	7	4	

## 看護部門

今年度、看護部門は利用者の日々の健康管理に重きを置き日常の業務にあたった。また、体調不良等の早期発見、早期対応に努め嘱託医と連携しつつ早期治療につなげる事ができている。なお、感染症に対する対応としては、対策研修によって、様々な感染症に対する基本的知識、予防策等の学びの場として活用した。最後に、入院者の原因疾患としては肺炎、内蔵疾患等が多かった。

### 1. 嘱託医回診状況調べ

### 2. 協力医往診状況調べ

月	回数	人数	計	月	眼科	歯科	受診	計
4月	5	235	235	4月	5			5
5月	4	194	194	5月	8			8
6月	4	185	185	6月	4			4
7月	5	224	224	7月	6	1	1	8
8月	4	167	167	8月	3			3
9月	5	224	224	9月	4		3	7
10月	4	175	175	10月	5		1	6
11月	4	181	181	11月	5	4	2	11
12月	5	235	235	12月	7	6		13
1月	4	175	175	1月	4			4
2月	4	174	174	2月				0
3月	5	236	236	3月	3			3
計	53	2405	2405	計	54	11	7	72

### 3. 受診状況調べ(外来)人数(嘱託医)

	内科	外科	整形外科	皮膚科	循環器科	耳鼻咽喉科	神経内科
4月	4		1				1
5月	3		2		1		
6月	5		2				
7月	9						1
8月	7		2	1			1
9月	8		2	2			1
10月	5		1	1			
11月	9		1				
12月	12		1				
1月	4						
2月	5			1			
3月	3						
計	74	0	12	5	1	0	4

### 受診状況調べ(外来)人数(嘱託医以外)

	内科	外科(整形)	精神科	脳神経	神経内科	循環器科	婦人科	泌尿器科
4月			1					
5月	1							
6月	3			1				
7月			1	1				
8月	2	1						
9月		1	3	1	1			
10月			1					
11月			4				1	
12月	1	1	2					
1月		1	3					
2月	1		1					1
3月	2	2	1					
計	10	6	17	3	1	0	1	1



#### 4. 利用者健康診断状況調べ

実施日	胸部(X線)	心電図	採血	検尿	予防接種		
					混合インフル	コロナワクチン	肺炎球菌
令和3年6月30日	42					(1回目)47	
令和3年6月29日		45	45			(2回目)47	
令和3年10月12日		38	38			(3回目)48	
令和3年10月21日～10月28日					50		
令和3年2月～3月							6
令和3年8月17日～20日				39			
令和4年1月9日～14日				43			

#### 5. 職員健康診断状況調べ

実施日	協会けんぽAコース	定期Aコース	法定コース	腰椎検査	予防接種	
					混合インフル	コロナワクチン
令和3年5月7日	27		12	12		(1回目)36
令和3年10月15日			16	13		(2回目)36
令和3年11月1日					30	(3回目)38

混合インフル接種は20名程度は産業医以外での接種

#### ストレスチェック

実施日	実施内容	判定結果
令和4年8月9日～21日	職員56名中提出職員21名	高ストレス該当者は 2名/21名

#### 機能訓練部門

今年度機能訓練部門では、利用者の身体状況に応じたADL評価等に基づいた機能訓練計画書を作成し、機能訓練の充実を主眼に置いてサービス支援に努めた。

また、サービス提供にあたっては、家族または本人への計画書の説明と同意を得る事を徹底するとともに、介護、医務での連携をとる事でより活動的な日常生活を送る事ができるよう援助にあたった。

なお、リハビリについては、日常生活動作訓練を主体としつつ、利用者の状況に応じて、歩行、起立等の訓練も随時行えるよう支援し、残存機能を活かした生活が実現できるよう努めた。

## 給食部門

今年度給食部門では、常に利用者の健康状態並びに栄養状態に配慮した給食サービスの提供に努めた。

1. 栄養ケア、栄養マネジメントを充実させる事により低栄養状態の改善に努めた。
2. 利用者個々の嚥下能力等を適切に把握する事で、個々の状況にあった食形態を提供する事ができた。
3. 適時適温給食サービスを提供する事で、より家庭での食生活に近づける事ができるよう支援にあたった。
4. 定期的な嗜好調査並びに誕生日時での希望食等により、『選ぶ楽しみ』を持つ機会作りとともに献立作りに努めた。
5. 衛生管理について、食中毒の予防はもちろんの事、安全安心な食材選定に細心の注意を払いながら日常業務にあたった。

### 令和3年度行事食等状況調べ

月	内 容
4月	花見弁当
5月	端午の節句料理
6月	運動会弁当、田植え団子作り
7月	土用丑の日、慰霊祭精進料理
8月	そうめん流し、お盆精進料理
9月	敬老祝賀会祝い膳、月見団子作り
10月	
11月	ぜんざい会
12月	クリスマス・忘年会、年越しそば
1月	お節料理、七草粥、鏡開き
2月	節分料理
3月	ひな祭り料理、彼岸団子作り、創立記念日祝い膳

令和3年度食種別食数状況調べ【特養】

月 食種	米 飯						合計
	常食	刻み	小刻み	極小刻み	ペースト	流動食	
4月	180	630	393	247	0		1450
5月	250	649	519	279	0		1697
6月	270	541	517	239	0		1567
7月	325	593	416	235	0		1569
8月	372	602	461	148	0		1583
9月	362	676	389	90	0		1517
10月	372	647	394	165	0		1578
11月	403	477	470	203	0		1553
12月	465	614	425	158	0		1662
1月	425	635	409	93	0		1562
2月	275	677	306	84	0		1342
3月	370	908	279	93	0		1650
合 計	4069	7649	4978	2034	0	0	18730
平 均	339	637.4	414.8	169.5	0	0	

月 食種	全 粥						合計
	常食	刻み	小刻み	極小刻み	ペースト	流動食	
4月	0	90	450	990	990	180	2700
5月	0	93	507	959	1023	152	2734
6月	0	90	450	904	936	120	2500
7月	0	93	372	947	892	186	2490
8月	0	131	348	986	699	91	2255
9月	62	180	360	965	771	120	2458
10月	93	162	396	850	815	124	2440
11月	90	90	372	858	907	120	2437
12月	64	155	338	773	1137	143	2610
1月	0	185	354	753	981	186	2459
2月	0	169	353	673	884	168	2247
3月	0	279	372	841	941	171	2604
合 計	309	1717	4672	10499	10976	1761	29934
平 均	25.75	143	389.3	874.9	914.7	146.7	2494.5

令和3年度食種別食数状況調べ【短期】

月 食種	米 飯						合計
	常食	刻み	小刻み	極小刻み	ペースト	流動食	
4月	0	0	0	0	0	0	0
5月	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	0	0	0
7月	0	0	0	0	0	0	0
8月	0	0	0	0	0	0	0
9月	0	0	0	0	0	0	0
10月	0	0	0	0	0	0	0
11月	0	0	0	0	0	0	0
12月	20	0	0	0	0	0	20
1月	7	0	0	0	0	0	7
2月	15	0	0	0	0	0	15
3月	25	0	0	0	0	0	25
合 計	67	0	0	0	0	0	67
平 均	16.75	0	0	0	0	0	0

月 食種	全 粥						合計
	常食	刻み	小刻み	極小刻み	ペースト	流動食	
4月	0	0	0	0	0	0	0
5月	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	0	0	0
7月	0	0	0	0	0	0	0
8月	0	0	0	0	0	0	0
9月	0	0	0	0	0	0	0
10月	0	0	0	0	0	0	0
11月	0	0	0	0	0	0	0
12月	0	0	0	0	0	0	0
1月	0	0	0	0	0	0	0
2月	0	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0	0
合 計	0	0	0	0	0	0	0
平 均	0	0	0	0	0	0	0